

川崎のドレスメーカー学院・栗田さん

来春、高校開校へ

服飾学びび高卒資格

東日本大震災の被災地支援で今年7月、多摩区の中学生に洋裁を教える栗田さん



川崎市多摩区登戸の洋裁学校「登戸ドレスメーカー学院」で40年以上、服飾教育に従事してきた副校長、栗田佐穂子さん(66)が来年4月、ファッションを学びながら高卒資格も取得できる通信制高校「ユニバーサル服飾高等学院」の開校を目指している。「義務教育で能力を發揮しきれない

「才能引き出し、進路に幅」

かった生徒を羽ばたかせ、進路の幅も広げてあげたい」。初代校長に就任する予定の栗田さんは教育人生の集大成として心血を注ぐつもりだ。

栗田さんは、文化や性別、障害に関わらず誰でも着られる「ユニバーサルファッション」の先駆者で、02年には「かわさきマイスター」に認定された。その技術を43年間、ドレ

スマーカー学院で伝えてきた。

技術指導の他、中学卒業後に入学してきた生徒たちのため、学力が身に着くよう心を配った。勉強が振るわず、引込み思案だった生徒が、製図や針の使い方を手取り足取り教

えると飛躍的に上達、自信が付き、数学などにも興味を持ち始める例が多かった。栗田さんは「能力はある。勉強するタイミングが合わずに才能が隠れていただけ。自信と才能は引き出せる」と話す。

ただ、ドレスメーカー学院は卒業しても高卒扱いにはならない。「服

飾を学べる大学に行きたい」と、輝きを取り戻した生徒の目や声が、栗田さんにはうれしかったが、歯がゆくもあった。「高校の卒業資格を取らせ、可能性をより広くしてあげたい」。その思いが年々募り、高等学院の設置を決めた。

高等学院は3年制で、栗田さんと東野菜穂子さん(35)ら教員免

許所有者が講師を務める。針と糸の扱い方から指導し、洋裁や服飾、手芸にデザインと生徒の志向と能力に合わせてカリキュラムを組み上げる。実技科目が高校の単位として認められ、登校のペースも週2日から選べる。

福岡県にある教育特区の通信制高校と提携してネット学習も取り入れ、スクーリングなどを経て高卒資格が得られる仕組みだ。定員20人の少人数教育で、東野さんは「生徒の心の隅まで把握したい」と意気込む。栗田さんも「不登校になったり中退した生徒、障害があって支援が必要な子供たちがマイペースで学べる中等教育機関にしたい。社会に一步を踏み出す自信をつけるのが使命」と力強い。

23日に説明会

校舎はドレスメーカー学院と併用する予定。23日午後1時と同3時半から、同学院で学校説明会がある。要予約。問い合わせは同学院(044・900・8844)。
【倉岡一樹】